

第30回 理学部同窓会役員会 議事録

開催日時：令和6年（2024年）9月15日 14:00～16:00

会議形式：対面＋ZOOM併用

会場：理学部2号館2階第一会議室

出席者：井上直也（会長）、小池直之、平出恒夫、西島和三（副会長）、天海孝、一石昭彦（理事）、松岡聡、田中秀逸、江頭信二、藤原隆司、田中信行（事務局）

議事

報告事項

- 委員の確認：自己紹介（資料1：役員及び役職リスト）
 - 天海さんは化学同窓会幹事、水野さんは数学科同窓会副会長なので記載を訂正する。
 - 監事・会計は任期2年、2名分の役割はそれぞれ独立させて、それぞれローテーションする。
 - 会計は金銭の管理を伴うことから学内の方が1名あるとよい。一方、監事については会計監査が主な担当なので、学外からでも問題はない。会計担当うち1名については分生の松岡さんが担当することとなった。
 - 役員は任期は、4月1日の年度初めが起点であり、前年度に分担が判明しているため、各学科同窓会では、前年度末までに担当を決めておく。理学部同窓会として十分な周知・確認を行うこととする。
 - 一方、会計担当については監査対応があるため、年度をまたぐ作業が発生することに留意する。
- 各学科同窓会活動について（報告）

各学科同窓会としての主な活動について以下のとおり報告があった。

物理：同窓生の集まりへの資金支援、図書室の充実、梶田さんコーナー作成、合宿研修への補助

数学：OBOGによる進路支援セミナー（11～12月にも行う予定）

化学：談話会と総会（10/21講演）、北浦和のレストラン貸し切りで懇親会

分子生物：2025年に総会を予定

生態制御：役員会を実施、学生の学会への参加支援（昨年4名を対象）、旅費の支援を続ける
- 令和5年度理学部同窓会活動の報告（資料2：令和6年発行「第23号理学部だより」）

理学部同窓会としての主な活動について以下のとおり報告があった。

 - ✓ メルマガの配信
 - ✓ 令和5年度理学部デー（2023年11月25日）に対して、後援という形で資金的援助を行った
 - ✓ 卒業生に対する卒業記念品、入学生に対する入学記念品を贈呈した
 - ✓ 令和6年度入学者の会費納入状況については、年による変動があるが、40台後半から50台後半%
 - ✓ OBOGによる「理学部と理学部同窓会共催による進路支援セミナー」を2023年5月と2024年5月に実施、2024年度にもう一回実施する予定
- 理学部同窓会会計報告（資料5：決算報告書）

以下の議論を踏まえ、令和5年度監査報告書の案について監事でもチェックすることとなった。

 - 繰越金が減っていくことは同窓会の活動として健全な方向性になっていると思う。
 - 支出が増えて使い道が増えていることは良いこと、一方、同窓会費自体が減っていることは加入率を増やす取り組みも必要。また将来、赤字になるようなことにならないよう、いずれかの段階で予算の見直しも必要。

⇒ 今年度の監事より会計監査が行われ、帳簿と支出が合致していることが確認された（10/18）。
- 「埼玉大学同窓会」代議員総会
別紙資料を参照いただきたい。

<https://www.dropbox.com/scl/fi/sj6r72dwu2qays7w32ica/20240727-2024-20240727-24.pdf?rlkey=6mderhzge7m8p0vwoektg1pno&st=87rwr5vp&dl=0>

協議事項

1. 2024年度予算案（資料6：予算案）
以下の議論を踏まえ、令和6年度は、予算案に沿って事業を進めることとなった。
 - ・令和7年度の予算案については、同窓会費の推移を見つつ、支出の項を改めて検討する。
 - ・学科同窓会活動費は見直しても良いかもしれない。
 - ・予算案の「入学者記念品」は令和7年度の入学者への贈呈を対象としている。新入生に最も渡しやすい時期は、授業が始まる前、4月のガイダンスの時期であり、前年度の手続き・購入が必要となるためである。
 - ・財政状況が悪くなるような場合には、支出を削らなければならない場合もありうる。
 2. 「メルマガ配信」の継続
 3. OBOGによる「理学部と理学部同窓会共催による進路支援セミナー」の開催援助
 4. 「卒業記念品」「入学記念品」の贈呈
 5. 同窓会費未納者への督促案内
 6. その他の「同窓会」が見える事業の検討
 7. 役員会の開催
 8. その他：申し送り含む
- 理学部同窓会長から以下のとおり報告があった。
- ✓ 令和6年度のホームカミングデー、企画が固まりつつあり、各部学科同窓会を通じて参加への案内をお願いしたい。
 - ✓ （前会長、学長と懇談の場で）埼玉大学80周年（4～5年後）記念企画を各部に検討する依頼があった。
 - ✓ 同じく、埼玉大学の基金が存在し、同窓会としての周知等に関する協力依頼があった。

その他【会費納付率向上の課題】

以下の議論を踏まえ、引き続き学生に加入に理解を求めるための周知活動を進めることとなった。

- ・納付率約5割の現状が課題。在学生に対して納付してもらう取り組みを強化したい。
- ・前年度は同窓会長名での加入を促す文章を作成して学生に送付したが、今年度は、同窓会の取り組みを紹介できるパンフレットなどを作って配布することを考えたい。
- ・納付率を上げるためには、会費がどのように使われているか、学生にいかに役立っているかを開示、学生に納得させることが有効ではないか。
- ・また、繰越金の現状を示し、同窓会を維持するためには多くの加入が求められている状況を伝えてはどうか。
- ・会費の使途や援助について、見える化をして、まずは有効に使われていることを示したい。
- ・いずれにせよ周知・案内は積極的に行う必要がある、納付率を増やす努力は必要。

以上